

タイムリーな経営支援で大学シーズの事業化達成

株式会社 三次元メディア

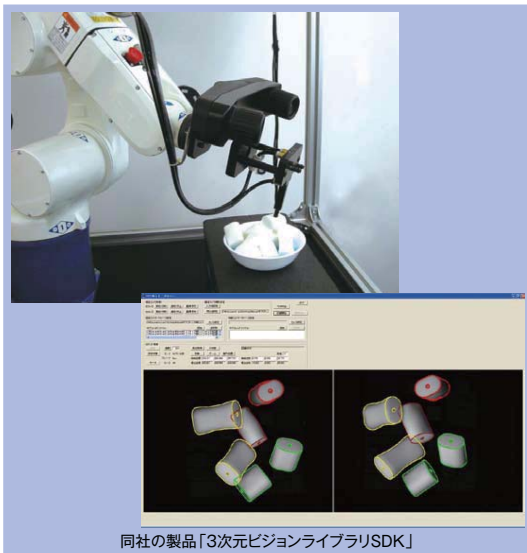
株式会社三次元メディアは立命館大学発ベンチャー企業である。徐社長は1996年に立命館大学に助教として赴任し、2000年12月20日に有限会社三次元メディアを設立した。資金調達支援、販路開拓支援を通じて既に車検場における車体長の測定システムの設置や、大手自動車・電機メーカーへの技術提供など事業化を果たしたが、今後はロボットビジョンを開発し、ロボットメーカーやシステムインテグレート企業と連携して、自動車業界、電機業界、食品業界などの生産革新を提案していく。2014年の株式公開を目指している。

1. 企業概要

- 入居日名: 立命館大学BKCインキュベータ
- 企業名: 株式会社 三次元メディア
- 業種: 精密機器産業
- 本社: 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学BKCインキュベータ
- 代表: 徐 剛
- 資本金: 9,060万円
- 設立: 2000年12月
- 売上高: 8,600万円(第8期)
- 従業員: 10名
- 事業内容: 3次元ビジョンシステムの開発販売
- URL: <http://www.3dmedia.co.jp/>

立命館大学発ベンチャー第1号の企業であり、立命館大学の教員が代表取締役を兼務している。三次元画像計測の研究成果を基に、「立体画像の生成」を主な事業としたことにより、各方面から注目を浴び、順調に業績を伸ばしてきた。

また、同社では「ロボットビジョンシステム」を開発し、既に事業化のステージに入っている。現状の産業用ロボットは、ティーチングされた内容を忠実に実施しているに過ぎない。同社の技術は、産業用ロボットに「目」の機能をもたせることで、乱雑に置かれた部品の認識・搬送を可能にする。治具が不要になったり、段取りの効率が各段に向上したり、混流生産を可能にしたりする技術である。ロボットビジョンシステムを次なる事業化の柱に据え、業績拡大をはかっている。



同社の製品「3次元ビジョンライブラリSDK」

2. なぜ、入居したのか?

徐社長は1996年より、立命館大学で教鞭をとっており、立命館大学BKCインキュベータが設立された2004年に入居を決めた。大学内に立地しているため、学内の研究者との交流、研究施設の活用などにメリットを感じたためである。インキュベーション・マネージャーや専門家による経営支援を受けられることも、魅力に感じていた。

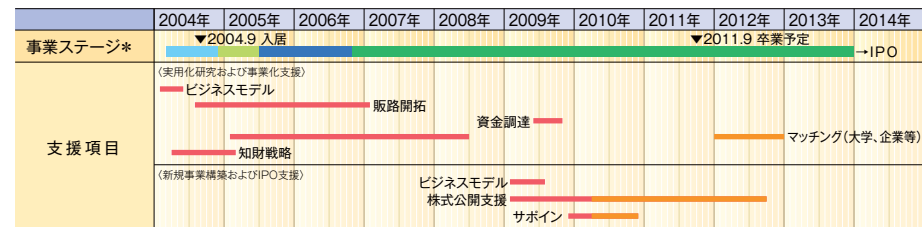
3. どのような課題を抱えていたのか?

入居前に事前ヒアリングを実施したが、要素技術開発を完了していたものの、実用化技術の開発、用途開発や販路開拓の課題を抱えていた。また、ロボットビジョンへの進出に当たり、事業を拡大するために資金調達の必要性があった。

4. どのような支援を行ってきたのか? その成果は?

用途開発支援、販路開拓支援では、展示会出展支援や入居企業同士のマッチングを行ってきた。その結果、数社の新規取引を開始できた。資金調達に関しては、ベンチャーキャピタルを十数社集めて事業計画説明会を開催し、ベンチャーキャピタルから資金調達することができた。

さらに、今後の用途開発及び事業化のために、中小企業庁の中小ものづくり高度化法の認定及び戦略的基盤技術高度化支援事業への採択(いわゆる「サポイン認定・助成」)に挑戦した。申請書の作成サポートや中小機構のプロジェクトマネージャーの紹介等、綿密な対策をとり、2009年半ばに「認定」をうけ、「委託費」を獲得できた。

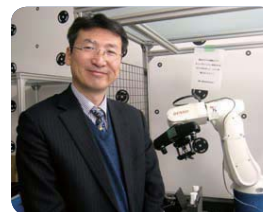


* ■ 研究開発段階 ■ 初期販売段階(試作品、サンプル出荷) ■ 事業化(断続的売上) ■ 事業化(安定的売上) / ■ これまでの履歴 ■ これからの計画

5. 今後、どのような支援を行っていくのか?

同社は2014年の株式公開を目指している。その道のりは決して平坦ではなく、上場に相応しい組織・人材づくり等、様々な課題を解決する必要がある。その第一歩として、中小機構の専門家継続派遣制度を活用し、サポートしていきたい。また、販売実績を積み上げることも極めて重要で、更なる顧客開拓が必要である。徐社長は、単独でも企業開拓するだけの頭脳と行動力を持ち合わせているが、中小機構としては、特に精密機器系ベンチャーや大企業とのマッチングなどを仕掛けていきたい。

6. 代表の声



株式会社三次元メディア 徐社長

入居企業との交流の場を与えていただいたり、わが社の資金調達のためにベンチャーキャピタルを一堂に集め懇談会を設定していただいたり、必要などきに必要なる支援を提供していただいております。また、各種イベント・フォーラム等で当社のPRの機会を継続的に実施していただく等、立命館大学BKCインキュベータのIMには、常日頃から種々の相談にのっていただき大変感謝をしています。

BI紹介 立命館大学BKCインキュベータ

立命館大学BKCインキュベータは、立命館大学びわこ・くさつキャンパス内にある、大学連携型のBIである。2004年にオープンし、これまで35社が入居している。これまでの入居企業のすべてが、共同研究など、何らかの形で立命館大学の教員と連携しているほか、大学発ベンチャー数も多い。卒業企業も2社輩出している。

IM室の体制は、インキュベーション・マネージャー3名(中小機構から2名、大学から1名)、草津市のコーディネーター1名、スタッフ2名である。それぞれの機関の特徴を活かし、入居企業支援、地域連携を進めている。また、BIとしては全国的にも珍しく、IM室でのインターンシップを行っている。これまで5年間に50名の大学生・大学院生を受け入れ、IMと一緒に汗を流して企業支援をしているところである。

2009年12月に満5周年記念行事を終え、現在6年目に入り新たな構築に向けて事業を展開中である。



2009年12月11日 5周年記念イベント